

【令和6年(2024 年)版 令和7年8月刊行】

消 防 年 報

SHIMONOSEKI



FIRE BUREAU

下関市消防局

は し が き

この消防年報は、下関市消防局の消防現勢及び消防業務に関する諸般の事業を収録し、消防事情を広く紹介するために編集したものです。

なお、この消防概要は、令和7年4月1日現在をもって作成したものです。予算に関する事項は会計年度、それ以外のものについては、当該表にそれぞれ記載した年月日によるものです。

令和7年8月 下関市消防局

目 次

下関市の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
下関市の面積・人口・世帯数、消防力・・・・・・・・	2
下関市図及び消防庁舎概要・・・・・・・・・・・・・・・・	3
令和6年(2024年)中の行事・・・・・・・・・・・・・・・・	4
【総 務】	
組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
消防庁舎等の位置構造・・・・・・・・・・・・・・・・	6
消防力整備状況	
(1) 消防力の整備指針と現勢・・・・・・・・	7
(2) 消防相互応援協定等締結状況・・・・・・・・	8
予算・決算	
(1) 一般会計予算と消防予算・・・・・・・・	9
(2) 消防予算の使途別比較・・・・・・・・	9
(3) 消防予算と人口・世帯数の比較・・・・・・・・	10
(4) 令和7年度消防予算の財源内訳・・・・・・・・	10
(5) 消防費財源内訳グラフ・・・・・・・・	10
人事	
(1) 職員配置状況・・・・・・・・	11
(2) 職員の年齢構成・・・・・・・・	11
(3) 職員の勤続年数状況・・・・・・・・	11
(4) 職員の特殊技能その他資格取得状況・・・・・・・・	12
【予 防】	
下関市消防防災学習館「火消鯨」・・・・・・・・	13
防火対象物	
(1) 防火対象物数・・・・・・・・	14
(2) 防火管理者を必要とする防火対象物数・・・・・・・・	15
(3) 防火対象物点検・防災管理点検を必要とする防火対象物数・・・・・・・・	16
(4) 消防設備点検資格者等が点検しなければならない防火対象物数・・・・・・・・	17
建築	
(1) 建築確認申請・計画通知・許可申請事務処理状況・・・・・・・・	18
(2) 工事整備対象設備等着工届出・消防用設備等設置届出受理状況・・・・・・・・	19
危険物	
(1) 危険物製造所等数・・・・・・・・	20
(2) 消防法・火災予防条例に基づく届出済施設数・・・・・・・・	20
(3) 危険物製造所等の許認可・届出等事務処理状況・・・・・・・・	21
(4) 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律に基づく事務処理件数・・	21
防火指導	
(1) 防火対象物指導状況・・・・・・・・	22
(2) 住宅防火指導状況・・・・・・・・	22
(3) 火災予防条例に基づく届出処理状況・・・・・・・・	23
消防クラブ	
幼年・少年消防クラブ、女性防火クラブ現況・・・・・・・・	24

防火指導員	
防火指導状況	25
【警 防】	
車 両	
消防車両一覧	26
消防水利	
(1) 消火栓の設置状況	27
(2) 防火水槽の設置状況及びその他の水利状況	27
中高層建築物	
(1) 管轄別中高層建築物状況	28
(2) 中高層建築物階別・用途別状況	28
(3) 高層建築物棟数	28
【情報指令】	
消防通信系統図	29
緊急通報受信状況	30
【火災統計】	
火災概況	
(1) 年別・署別火災発生状況	31
(2) 5年間の火災状況	32
(3) 管轄別・月別火災状況	33
(4) 地区別火災状況	34
(5) 令和6年の死者の発生した火災	35
(6) 用途別・原因別火災状況	36
【救急救助統計】	
救急概況	
(1) 10年間の救急状況	37
(2) 年別出場件数及び搬送人員	37
(3) 地区別発生件数	38
(4) 事故別・年齢区分別搬送状況	39
(5) 年齢区分別・傷病程度別搬送状況	39
(6) 救急隊員の応急処置状況	40
(7) 救命講習修了状況	41
救助概況	
5年間の救助活動状況	42
【消防団等】	
消防団の状況	43
消防団員の報酬	
(1) 年額報酬	44
(2) 出動報酬	44
下関市消防団人員機械一覧表	45
自衛消防隊	
自衛消防隊のポンプ保有台数	46

下 関 市 の 概 況

下関市は、本州の最西端に位置し、関門海峡をへだてて九州と相對しています。

地形の特徴として市街地に丘陵が多く、海岸の大小ひしめきあった丘陵地形にかけて市街地を形成しています。

古くから西日本の政治・経済・文化の中心地として、また内外との交通の要衝として繁栄し、歴史の上では神功皇后の對外活動の基地として、また源平合戦の舞台としても有名で、毛利藩の統治下に培われた海運による諸国物産の集散地としての性格は今日の下関を形成する基礎となっています。

また、幕末の尊王攘夷論を背景にして勤皇志士の活躍の場、そして明治22年には日清戦争の講和の地ともなりました。

明治22年に赤間関市として市制をしき、同35年に下関市と改称し、大正10年に生野、昭和8年に彦島、昭和12年に長府、安岡、川中、昭和14年に小月、王司、清末、吉見、勝山の各隣接町村を編入して進展を遂げ、大陸との中継地、そして西日本の水産基地として確固たる地位を占めるに至りました。

昭和20年に戦災によって市の中心部はほとんど壊滅しましたが、戦後いち早く復興し、西日本有数の水産都市となり、昭和30年に吉田、王喜、内日各村を合併編入、平成17年2月13日には、旧下関市、豊浦町、豊北町、豊田町、菊川町が合併、新市として下関市が発足し、同年10月1日には総務大臣より中核市としての指定を受けました。

また、昭和17年の関門鉄道トンネル開通に続き、昭和33年には、関門国道トンネル、昭和48年には関門橋、さらに昭和50年に山陽新幹線が開通し、北九州経済圏とも、いっそう密接な結びつきをもつに至り、また、海峡交通においてもわが国有数の要衝地として発展目覚しく、昭和45年には韓国釜山広域市とを結ぶわが国最初の国際定期航路が開設され、関釜フェリーが就航しました。平成17年には中国の国際大都市上海市（後に蘇州に変更）との間にも国際定期航路が開設されるなど、アジア諸国の玄関口として都市機能も進展し、国際化へと歩んでいます。

また、まちづくりの基本理念として「まちの誇りと自然の恵みを未来へつなぐ 輝き海峡都市・しものせき」を提唱し、市民・事業者・行政が共通の目標を持って、それぞれの役割を自覚し力を結集する新たなまちづくりを目指しています。